

アドバイザー・ボード 感染者情報の活用のあり方に関するWG設置要綱

1. 趣旨

厚生労働省において、感染者等の情報を一元的に把握・管理するため、「新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）」が開発・導入され、5月末から全国で順次利用を開始しているところである。

より効率的・効果的なサーベイランスに資するよう、HER-SYSの運用上の課題の検討、収集されるデータの集計・分析及び結果の活用のあり方並びに感染症情報の収集・管理の仕組み・体制のあり方等について、医療・公衆衛生分野の専門的・技術的見地から検討するため、感染者情報の活用のあり方に関するワーキング・グループ（以下「本WG」という。）を開催する。

2. 構成・運営

- (1) アドバイザリー・ボードの下に本WGを置く。本WGのメンバーはアドバイザー・ボードの座長が指名する者とする。
- (2) 本WGに座長を置く。座長は、アドバイザー・ボードの座長が指名する者をもって充てる。
- (3) 座長は、必要に応じ、本WGの会合に関係者の参加を求めることができる。
- (4) 事務局は、本WGの求めに応じ、検討に必要な情報の提供その他の必要な支援を行う。

3. 審議内容の公表等

- (1) 座長が適当と認めるときは、本WGの会合を非公開とすることができる。
- (2) 会合における審議内容の公表は、会議資料並びに開催日時、開催場所、出席者、議題、発言者及び発言内容を記載した議事概要によることとする。
- (3) その他アドバイザー・ボードの運営に関して必要な事項は、座長が定める。

【構成員】◎：座長

押谷 仁	東北大学大学院医学系研究科微生物学分野教授
釜菴 敏	公益社団法人日本医師会常任理事
清本 次保	神奈川県健康医療局保健医療部健康医療データ活用担当課長
◎ 鈴木 基	国立感染症研究所感染症疫学センター長
仙賀 裕	一般社団法人日本病院会副会長
前田 秀雄	北区保健所長
松田 晋哉	産業医科大学公衆衛生学教授
三崎 貴子	川崎市健康安全研究所企画調整担当部長

今後の進め方（イメージ）

1. 主な論点

（1）運用上の課題

- HER-SYS を入力・利用する自治体や医療機関にとって、より使いやすいシステムとするためには、どのような課題があり、どう対応するか。
 - ・これまでの自治体等との意見交換の概要とそれを踏まえた対応予定
 - ・更なる改善課題について
- セキュリティ、個人情報保護の観点からの不安の声にどう対応するか。
- 保健所・都道府県間を超えた、より効果的な感染症対策（クラスター対策、分析等）に資するシステムにすることはできないか。

（2）収集データの活用のあり方

- HER-SYS により収集されるデータを用いて、精緻な集計・分析がリアルタイムに可能となるはずだが、どのような分析が可能になるかについて、活用可能性を更に検証するべきではないか。
- その上で、自治体等が使いやすい分析ツールを導入すべきではないか。
- さらに、集計・分析の結果が、どのように実務面での改善につながりうるかについても示すべきではないか。あわせて、国、自治体等による結果のフィードバックや情報提供のあり方についても示すべきではないか。

（3）感染症情報の収集・管理の仕組み・体制のあり方等

- 国、都道府県、保健所設置市・特別区の情報共有における課題等について

2. 進め方

7月14日（火） アドバイザリー・ボード

- ・WG設置についての了承

7月22日（水） 第1回WG

- ・厚労省から現状説明（主な機能（データ可視化ツールを含む。）、利用状況等）
- ・主な論点（1）及び（2）について

7月中 第2回WG

- ・主な論点（2）及び（3）について